

総務教育常任委員会資料

(令和8年1月21日)

【件名】

- ・島根県東部を震源とする地震に係る公立学校施設の被害について
(教育環境課) … 2
- ・鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針の改訂について
(生徒支援・教育相談センター) … 4
- ・令和7年度英語力向上に係る外部試験（4技能型英検IBA）の結果について
(小中学校課) … 6
- ・県立高等学校入学者選抜における全国募集について (高等学校課) … 8
- ・高等学校教育改革促進基金について (高等学校課) … 9
- ・令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び鳥取県体力・運動能力
調査の結果について (体育保健課) … 11

教育委員会

島根県東部を震源とする地震に係る公立学校施設の被害について

令和8年1月21日

教育環境課

令和8年1月6日に発生した島根県東部を震源とする地震によって、県内の公立学校施設に下記のとおり被害が確認されました。引き続き確認を続けるとともに、市町村に対しては国災害復旧補助金の申請手続き等を助言しながら早期復旧に取り組んでいきます。なお、国に対しては早期復旧に係る支援を要望予定です。

1 本県の学校施設の被害状況 (R8.1.20 現在)

本県の公立学校施設では、51校の被害を確認。

被害内訳：ひび割れ（43校）、ガラス破損（12校）、天井パネル落下（2校）、漏水（4校）

単位：校

施設設置者	被害校数	被害内訳			
		ひび割れ (内外壁、柱、屋外床)	ガラス破損	天井パネル落下	漏水
県	14	13	2	-	2
米子市	21	19	3	1	2
境港市	8	4	7	-	-
日吉津村	1	1	-	-	-
大山町	2	2	-	-	-
南部町	3	2	-	1	-
日野町	1	1	-	-	-
江府町	1	1	-	-	-
合計	51	43	12	2	4

※1校で複数の被害内容があるため、被害校数と被害内訳の計は一致しない。

【南部中学校（南部町）】体育館基礎部分のひび割れ



【米子高校（米子市）】プール床ひび割れ



【就将小学校（米子市）】校舎ひび割れ



【法勝寺中学校（南部町）】校舎天井パネルの一部落下

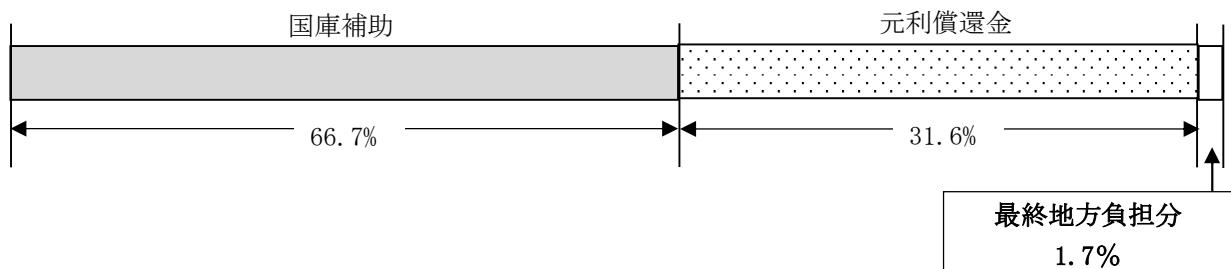


2 国の公立学校施設の災害復旧事業

補助率：2／3

(地方負担分に補助災害復旧事業債（充当率100%、元利償還金95%）が充当可能)

補助対象：学校ごと且つ施設区分（建物、工作物、土地）ごとの被害額が都道府県で80万円以上、市町村で40万円以上



鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針の改訂について

令和8年1月21日
生徒支援・教育相談センター

平成26年4月に策定した「鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針」について改訂を行いましたので、その内容について報告します。

1 改訂の背景

重大事態への対応等に係る国のガイドライン改訂、国のサポートチームからの指導・助言の内容を踏まえ、前回改訂から7年が経過して現在の状況に応じた具体的な方針を示す必要が生じたこと、また、いじめの重大事態が毎年一定数発生している状況に即し、「いじめの未然防止と適切な対応」「重大事態の予防」等、学校等におけるいじめ対策のより一層の強化を図るために所要の改訂を行った。

■ 国のガイドライン

「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」改訂（文部科学省通知令和6年8月）

「いじめ防止対策の更なる強化等について」（文部科学省事務連絡令和6年12月）

「新年度における法等に基づくいじめに対する平時からの備えについて」（文部科学省通知令和7年3月）

■ 国のサポートチームの指導助言（R7.3.10）

いじめ重大事態に関する国のサポートチームが本県に派遣され、いじめ対応、鳥取県いじめ対応マニュアル、学校いじめ防止基本方針及び重大事態への対応について指導・助言及び指摘

2 主な改訂ポイント

いじめの積極的な認知及び早期発見・初期対応の徹底

重大事態の発生を防ぐための未然防止・平時からの備え

教職員のいじめ対応等の理解、資質向上及び学校の組織的対応

いじめを受けた児童生徒に寄り添った対応、いじめを行った児童生徒へのアセスメントに基づいた指導・成長支援

3 具体的な改訂内容

項目	具体的な内容	記載頁
いじめの未然防止、重大事態の予防のための平時からの備え	<ul style="list-style-type: none">児童生徒のいじめへの理解と意識向上の取組、体験活動・ボランティア活動による自己有用感の育成、配慮が必要な児童生徒への日頃からの対応等の重要性を記載教職員のいじめ対応の意識向上に向け確実な初期対応のポイントを記載重大事態に係る「未然防止・平時からの備え」を記載	4 12 14~15 16~17
学校方針に基づいた教職員のいじめ対応等への理解、資質向上	<ul style="list-style-type: none">学校におけるいじめの防止等の取組として、学校方針の策定、組織的対応の在り方、重大事態とその適切な対応について認識するための教職員研修を年間計画に基づき実施することを記載学校方針の修正・見直しのポイントを記載	9~11 16~17 9
校長をリーダーとした学校いじめ対策組織の役割	<ul style="list-style-type: none">校長をリーダーとした学校いじめ対策組織が平時から組織的対応の中核となる役割と、その重要性を記載「いじめ対応に係る主な教職員の役割」を記載	10 11
アセスメントに基づいた対応と専門家等との連携	<ul style="list-style-type: none">いじめを受けた児童生徒の思いに寄り添った対応、またいじめを行った児童生徒がいじめに至った背景や経緯をアセスメントし、保護者や専門家、専門機関と連携した成長支援の必要性を記載	5 14~15
学校・家庭・地域が総がかりで行ういじめ防止	<ul style="list-style-type: none">「家庭における取組」「地域における取組」を具体的に記述し、役割を明確化・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の一体的な取組の推進による地域ぐるみでいじめ防止に取り組むことを記載・いじめに関わった児童生徒及び保護者への丁寧な説明や共通理解のポイント等を記載	16 16 20
重大事態調査における調査項目や留意事項	<ul style="list-style-type: none">「重大事態調査の概要」「重大事態の基本的な考え方」を調査項目も含めて記載重大事態発生時の基本的な対応や、調査における調査主体や調査組織について記載調査にあたっての児童生徒・保護者への事前説明、結果説明等のポイント等を記載	19~20 32~33 34~36

4 今後のスケジュール

2月~3月 市町村教育委員会、県立学校等関係機関への通知／管理職・学校関係者用動画配信

令和8年度 新任管理職研修、担当者研修等での説明／いじめの問題に関する行政説明会

【別冊】「鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針」改訂版全文

「鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針」(改訂版)の概要

資料

改訂の背景

- 「いじめの未然防止と適切な対応」「重大事態の予防」をめざし、いじめ対策のさらなる強化を図ることを目的とする。
- 「いじめ防止対策推進法」の施行から10年が経過したが、全国的にも近年重大事態の発生件数が増加傾向となり、依然として「いじめ防止対策推進法」や「いじめの防止等のための基本的な方針(国方針)」「鳥取県いじめの防止等のための基本的な方針(県方針)」「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン(国ガイドライン)」等に沿った対応が不十分だったために、児童生徒に深刻な被害を与える事態が発生している状況にある。
 - 鳥取県においても、平成29年に「県方針」を改訂するとともに、「鳥取県いじめ対応マニュアル いじめの重大事態から学ぶ」を作成・改訂したが、令和5年度におけるいじめの重大事態の1,000人あたりの発生件数は全国最多であった。そして、令和7年3月に国のサポートチームの訪問において次のような指摘があり、この度「鳥取県いじめの防止のための基本的な方針」を8年ぶりに改訂することとした。
 - *「鳥取県いじめ対応マニュアル」を令和6年4月に改訂しているが、国ガイドラインの改訂も踏まえ、いじめへの適切な対応、重大事態の予防等についての具体的な記述等、さらに工夫が必要である。
 - *県内の学校の中には「学校いじめ防止基本方針」(学校方針)が、実態に即していないもの、何年も更新されていないものがあり、また、この内容が教職員レベルまで十分に浸透していない状況も見受けられる。

いじめの未然防止、重大事態の予防のための平時からの備え

- ・児童生徒のいじめへの理解と意識向上の取組、体験活動・ボランティア活動による自己有用感の育成、配慮が必要な児童生徒への日頃からの対応等の重要性を記載[- 3、 - 2]
- ・教職員のいじめ対応の意識向上に向け確実な初期対応のポイントを記載[- 4]
- ・重大事態に係る「未然防止・平時からの備え」を記載[- 1]

学校方針に基づいた教職員のいじめ対応等への理解、資質向上

- ・学校におけるいじめの防止等の取組として、学校方針の策定、組織的対応の在り方、重大事態とその適切な対応について認識するための教職員研修を年間計画に基づき実施することを記載[- 1、 - 1]
- ・学校方針の修正・見直しのポイントを記載[- 1]

校長をリーダーとした学校いじめ対策組織の役割

- ・校長をリーダーとした学校いじめ対策組織が平時から組織的対応の中核となる役割と、その重要性を明確に規定[- 1]
- ・「いじめ対応に係る主な教職員の役割」を記載[- 1]

アセスメントに基づいた対応と専門家等との連携

- ・いじめを受けた児童生徒の思いに寄り添った対応、またいじめを行った児童生徒がいじめに至った背景や経緯をアセスメントし、保護者や専門家、専門機関と連携した成長支援の必要性を記載[- 3 (7)][- 4]

学校・家庭・地域が総がかりで行ういじめ防止

- ・「家庭における取組」「地域における取組」を具体的に記述し、役割を明確化[- 、 -]
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の一体的な取組の推進による地域ぐるみでいじめ防止に取り組むことを記載[-]
- ・いじめに関わった児童生徒及び保護者への丁寧な説明や共通理解のポイント等を記載[- 5][チェックリスト]

重大事態調査における調査項目や留意事項

- ・「重大事態調査の概要」「重大事態の基本的な考え方」を調査項目も含めて記載[- 4、5]
- ・重大事態発生時の基本的な対応や、調査における調査主体や調査組織について記載[県ガイドライン]
- ・調査にあたっての児童生徒・保護者への事前説明、結果説明等のポイント等を記載[県ガイドライン]

令和7年度英語力向上に係る外部試験（4技能型英検IBA）の結果について

令和8年1月21日
小中学校課

令和7年6月9日（月）から令和7年7月25日（金）までの間に、中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した外部試験（4技能型英検IBA）の結果について、以下のとおり報告します。

○中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した4技能型英検IBAにおいて、英検3級（※1）レベルに達している生徒の割合は、リーディング・リスニングのテストでは43%（令和6年度：51%）、ライティング・スピーキングのテストでは46%（令和6年度：54%）であり、いずれも昨年度を下回った。
○技能別の平均CSEスコア（※2）は、英検3級レベルを上回ったのは「リスニング」のみで、それ以外は下回った。特に「リーディング」、「ライティング」については、英検3級レベルを下回っている。
○令和5年度から、本試験とともに中学校1、2年生（義務教育学校7、8年生）を対象に2技能型英検IBA（リーディング・リスニング）を実施しており、経年での伸びを見ることができるようになった。現中学校3年生（義務教育学校9年生）の英語力の伸びについては、1年次から3年次にかけて、「リーディング」、「リスニング」いずれの技能においても、3年間で大きくスコアを伸ばした。（※3）
⇒スコアは大きく伸びているが、現中学校3年生（義務教育学校9年生）が、昨年度（2年次）に実施した「2技能型英検IBA」の結果を、一昨年度の中学校2年生のスコアと比較すると、「リーディング」、「リスニング」ともに下回る状況にあったことに注意が必要。
※1 英検3級：国が示す中学卒業段階での英語力の指標（CEFR A1）の例として示される外部試験資格の1つ 国第4期教育振興基本計画では、生徒の英語力について、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当（英検3級程度）以上を達成した生徒の割合を令和9年度までに6割以上にすることを目標とともに、全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を5割以上にすることを目指すことが示されている。 (参考) 国の英語教育実施状況調査における同指標を達成した鳥取県の中学校3年生の生徒の割合 令和4年度：34.6% 令和5年度：51.0% 令和6年度：52.5%
※2 CSEスコア（Common Scale for English）：英検協会によって作成された、英語力を示す尺度（詳細は次頁参照）
※3 1、2年生で受験する2技能型IBAではライティング・スピーキングテストを実施しないため、経年での伸びを見ることができるの「リーディング」、「リスニング」のみ。

1 受験実績

- (1) 受験校数 58校 / 58校（公立中学校・義務教育学校）
 (2) 受験者数 中学校3年生・義務教育学校9年生
 ・リーディング・リスニング 3,862名
 ・ライティング・スピーキング 3,860名
 ※「リーディング・リスニング」と、「ライティング・スピーキング」の2種類のテストを別々に実施しているため、テストによって受験者数が異なる。
 (3) 受験期間 令和7年6月9日（月）から令和7年7月25日（金）まで

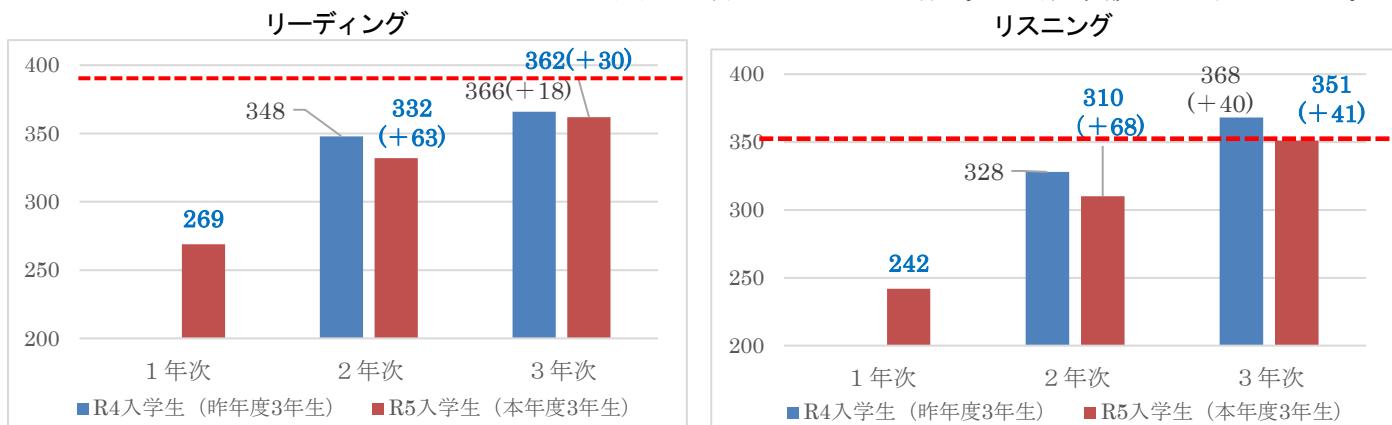
2 受験結果概要

（ ）内は、令和6年度の中学校3年生（義務教育学校9年生）の値

技能	問題内容	正答率(%)	CSEスコア	英検3級基準 CSEスコア	英検3級レベル 以上割合(%)	概要（人数分布及び課題等）
リーディング	語句の空所補充	52.6(51.4)	362 (366)	379	43 (51)	・多くの生徒が4級レベル後半の力を身に付けている。 ・「会話文の空所補充」の正答率が昨年度に比べて低下した。例年課題が見られる「長文読解」の正答率が若干向上したが、4割程度にとどまっている。
	会話文の空所補充	51.5(60.5)				・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けている。 ・昨年度向上の見られた「パッセージの内容理解」（※）の問題の正答率が下がった。
	長文読解	40.7(39.8)				・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けていない。 ・正答率は「内容」が最も高く、「文法」が最も低い。質問に対して適切な内容を書くことができず0点となった生徒が約1割いる。
リスニング	会話の応答	52.5(55.7)	351 (367)	349	46 (54)	・多くの生徒が概ね3級レベルの力を身に付けている。 ・「自分についてのやり取りをする」問題の正答率が令和5年度から3年間で最も高い値となった。一方、「英文についてのやり取りをする」問題の正答率が昨年度よりも下がった。
	パッセージ（※）の内容理解	44.4(51.2)				・多くの生徒が概ね3級レベルの力を身に付けている。
ライティング	内容	56.6(61.4)	336 (364)	375	46 (54)	・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けていない。 ・正答率は「内容」が最も高く、「文法」が最も低い。質問に対して適切な内容を書くことができず0点となった生徒が約1割いる。
	構成	54.2(60.1)				・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けていない。
	語い	52.4(57.7)				・正答率は「構成」が最も高く、「語い」が最も低い。
	文法	51.0(55.8)				・正答率は「構成」が最も高く、「文法」が最も低い。
スピーキング	自分についてのQ&A	74.2(61.6)	349 (353)	353	46 (54)	・多くの生徒が概ね3級レベルの力を身に付けている。
	音読	44.2(43.8)				・「自分についてのやり取りをする」問題の正答率が令和5年度から3年間で最も高い値となった。一方、「英文についてのやり取りをする」問題の正答率が昨年度よりも下がった。
	英文についてのQ&A	42.7(52.4)				・「自分についてのやり取りをする」問題の正答率が令和5年度から3年間で最も高い値となった。一方、「英文についてのやり取りをする」問題の正答率が昨年度よりも下がった。
	イラストの描写	45.1(48.5)				・「自分についてのやり取りをする」問題の正答率が令和5年度から3年間で最も高い値となった。一方、「英文についてのやり取りをする」問題の正答率が昨年度よりも下がった。

※パッセージ：英検IBAの試験問題においては、1人の話者による2、3文程度の説明文のこと。

3 令和7年度中学校3年生（義務教育学校9年生）の3年間の英語力の伸び（CSEスコアの比較） ()は前年度からのスコアの伸び。赤点線は英検3級基準CSEスコア。



＜参考：CSEスコア（Common Scale for English）について＞

・技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）ごとの英語力を把握することができる。また、継続的に活用することで、技能ごとの英語力の伸長度を把握することができる。（CSEスコアによる、英検合格レベル判定基準）

	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
4技能総合	2304	1980	1728	1456		
リーディング	598	511	448	379	330	236
リスニング	603	503	430	349	292	183
ライティング	591	506	444	375		
スピーキング	512	460	406	353		

4 分析及び今後の方向性

【分析】

（1）本結果について、本県の英語教育推進に関わっている外部有識者から助言をいただいた。外部有識者による助言と日本英語検定協会から示された成果と課題を踏まえた、技能毎での分析については以下のとおり。

リーディング	例年長文読解について課題が見られる。まとまった英文を理解することの困難さに加えて、問い合わせの趣旨を理解できていない生徒が一定数いると考えられる。
リスニング	短文は理解できても、まとまった英語を聞き、要点等を捉える力が身に付いていないことが考えられる。
ライティング	基礎的な語彙や文法が身に付いていないために、自分の考えを十分に表現することができないことが考えられる。
スピーキング	自分のことについてやり取りする力は身に付きつつあるが、読んだり聞いたりして理解したことを基に話す力が身に付いていないと考えられる。

（2）県内各学校においては「使いながら英語を身に付けられる授業づくり」が浸透し、教師や生徒の英語使用場面が増加しつつある。一方で、言語活動の質は学校や教師によって異なっており、教師による生徒の見取りや指導、支援が十分ではない授業も散見される。また、授業改善が個々の教員の取組となっており、3年間を通じた系統的な指導が十分になされていない。これらのことにより、生徒の力を十分に伸ばすことができないことが考えられる。

【今後の方向性】

（1）言語活動を通した指導の推進

外部有識者からの指導改善に向けた提案を踏まえ、特に以下の視点に留意しながら、引き続き言語活動を通じた指導を推進する。

基礎的な知識・技能の定着	基礎的な語彙や文法を着実に定着させるため、英作文の添削後、再度同様の話題で書かせる等、言語活動後に適切な指導を行い、繰り返し活動に取り組ませる。
複数の技能を統合した言語活動の実施	様々な話題について事実や自分の考えを表現する力を育成するため、「読んだり聞いたりしたことについて自分の考えを話す」「理解した情報を整理して書く」等、複数の技能を関連付けた言語活動を行う。
読んだり聞いたりする目的の明確化	目的に応じた読み方や聞き方を身に付けさせるため、漠然と英語を提示するのではなく、問い合わせを立てる等、理解するための視点を明確にしてから、読んだり聞いたりする活動を行う。

（2）各学校における組織的な授業改善の支援

本試験結果を「学校全体で、3年間を通して生徒の英語力を伸ばす」ことにつなげるため、各学校に「英検I BA結果活用シート」（令和6年度鳥取県教育委員会作成）を活用し、教科会等で生徒の英語力について分析し、授業改善に向けた取組の報告を求めているところ。今後も、本試験を活用した教科会の活性化等、学校全体での組織的な指導改善を支援する。

（3）教育研究団体等との連携の促進

教育研究団体や各市町村（学校組合）教育委員会と連携を深め、本調査結果や各学校からの報告を基に、英語教育推進に係る各学校及び地域の課題やニーズに応じた支援を充実させる。

県立高等学校入学者選抜における全国募集について

令和8年1月21日
高等学校課

令和9年度入学者選抜から、すべての全日制県立高等学校のすべての選抜（特色入学者選抜、一般入学者選抜、再募集入学者選抜）において全国募集（県外生徒募集）を行います。

1 全国募集（県外生徒募集）の趣旨、背景等

- ・県内中学校卒業者数が減少し続ける中においても、一定の学校規模を維持するとともに、活力ある教育活動を展開するためには、県外から高い志を持った生徒を積極的に受け入れ、切磋琢磨できる環境とすることが必要。

<中学校生徒数の推移>

平成元年（1989年）以降の本県中学校卒業者数は平成元年3月の9,657人をピークに減少傾向で、令和7年3月には4,892人と約半減しています。今後の推計はさらに厳しく、令和6年度に産まれた子どもたちが高校に入学する頃には3,000人程度になると推計されます。（令和7年5月1日時点推計）

- ・現在、一部の県立高等学校（学科）（1）の特色入学者選抜において、県外生徒（2）の出願を認めている。

1...13校 26学科

2...「県内中学校出身者かつ県内居住者」以外の者のうち、県内に居住地を変更する予定（または、すでに県内居住）の者

2 令和9年度以降の入学者選抜における全国募集（県外生徒募集）の内容

- ・すべての全日制県立高等学校（学科）のすべての選抜（特色入学者選抜、一般入学者選抜、再募集入学者選抜）において、県外生徒（3）の出願を認める。
- ・原則、県外生徒の合格者の決定に人数の制限は設けない。
ただし、県教育委員会が指定する高等学校（学科）における県外生徒の合格者数は、募集生徒数の10%以内とする。
- ・県教育委員会が指定する高等学校（学科）及び該当高等学校における県外生徒の募集人数等については令和8年6月頃公表する。

3...保護者の居住地が県外である生徒。なお、県内への居住地の変更の有無を問わない。

3 その他

（1）これまでの県外生徒募集に関する入試制度改正経緯

- ・平成28年度入試～推薦入試による県外生徒募集の実施（当時5校）
- ・平成31年度入試～推薦入試に係る県外生徒募集枠の拡大、県外から特定の県立高校への通学を前提とした生徒の出願を認める制度改正を実施。
- ・令和5年度入試～特色入試の実施
- ・令和9年度入試～全校での県外生徒募集の実施（保証人の設定も不要とする。）

（2）他県状況

- ・東京都、神奈川県、千葉県以外の道府県は一部全国募集を実施。
- ・香川県、秋田県、佐賀県は全県立高校で全国募集を実施。（全日制。一部定時制課程含む。）

高等学校教育改革促進基金について

令和8年1月21日

高等学校課

○いわゆる高校無償化とあわせて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、国から令和7年度中に示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」に沿った緊要性のある取組について、都道府県に創設する基金等により先行的に支援されることとなりました。（令和7年度国補正予算2,955億円）

○現時点で国から示されている情報は以下のとおりです。

○今後、詳細情報を入手し、関係機関と連携しながら進めていきます。

■ 1次申請分（基盤整備（体制構築）費）

6,000万円/都道府県（定額）/3年分（R8～R10の事業経費として基金に積立）

（内訳）3類型に応じた経費 2,000万円
都道府県事務費 4,000万円

＜使途イメージ＞

- ・関係機関が連携した会議開催経費（謝金、会場費等）
- ・教育委員会事務局における改革先導拠点の取組を支える体制を強化するための専門職員の配置経費
- ・3類型の取組開始前に準備等を実施するためのコーディネーターの配置経費
- ・拠点校の取組の準備、推進や成果の検証に要する経費 等

＜補助対象経費＞

3類型に応じた経費	報酬、給料・職員手当等及び共済費（任期の定めのない常勤職員に係るものは除く。）、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、原材料費、公有財産購入費、備品購入費、負担金、補助及び交付金。
都道府県事務費	報酬・給料・職員手当等及び共済費（任期の定めのない常勤職員に係るものは除く。）、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費。

＜スケジュール（予定）＞

- ・交付申請 令和8年2月
- ・交付決定 令和8年3月上旬

■ 2次申請分（先導拠点の取組に係る経費）

＜補助対象経費＞

現時点で詳細不明。

- ・各県3類型3校程度を想定
- ・同一類型かつ目標・取組内容が重複する拠点校を申請することはできない。
- ・DXハイスクールとの併用不可

＜スケジュール（予定）＞

- ・公募開始 令和8年2月上旬
- ・事業計画の申請 令和7年度中または令和8年5月中旬頃

高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～



令和7年度補正予算額

2,955億円

※N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日閣議決定）抜粋

第2章「強い日本経済実現」に向けた具体的な施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応（6）公教育の再生・教育無償化への対応（教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン2040（仮称）」に沿った緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足**、いわゆる**理系人材の不足が懸念される**ところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要**。
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要**。

①産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業 令和7年度補正予算額 2,950億円 支援期間：3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた

高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生みだす力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問い立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供する**ことが必要。
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学びや遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。

- 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
- 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用

- 域内の教育環境向上に貢献する取組**（遠隔授業、教員研修拠点等）
- グローバル人材育成**に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

②高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業 令和7年度補正予算額 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率等

①10分の10

補助対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費（人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等）
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費（人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等）

事業スキーム 文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び
鳥取県体力・運動能力調査の結果について

令和8年1月21日
体育保健課

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び鳥取県体力・運動能力調査の結果について報告します。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (資料1~3参照)

1 調査概要

平成20年度から文部科学省(現在はスポーツ庁)が小学5年生、中学2年生を対象として実施している調査(悉皆調査)

2 各実技テスト種目の状況(全国順位の()内の数字は令和6年度の全国順位)【資料1】

項目	小5男子			小5女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	15.97	16.12	18位(25)	15.61	15.83	14位(24)
上体起こし	19.45	19.47	19位(28)	18.36	18.52	18位(25)
長座体前屈	33.88	32.65	41位(44)	38.17	36.82	40位(41)
反復横跳び	40.90	41.67	20位(15)	38.71	40.15	12位(18)
20mシャトルラン	47.95	53.61	3位(3)	36.87	42.05	5位(5)
50m走	9.46	9.42	12位(13)	9.77	9.75	21位(20)
立ち幅跳び	150.96	150.64	27位(38)	142.39	142.76	20位(41)
ソフトボール投げ	21.06	21.72	18位(22)	13.10	13.52	26位(31)
体力合計点	53.03	53.65	14位(13)	53.98	54.95	14位(19)
項目	中2男子			中2女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	28.91	29.18	26位(23)	23.12	23.47	18位(39)
上体起こし	25.99	25.87	27位(24)	21.62	21.58	23位(28)
長座体前屈	44.98	44.30	34位(41)	46.97	46.05	35位(43)
反復横跳び	51.63	53.53	2位(10)	45.77	47.41	1位(8)
20mシャトルラン	78.59	82.95	4位(11)	50.44	54.14	4位(8)
50m走	8.00	7.84	1位(9)	8.97	8.88	9位(29)
立ち幅跳び	197.50	199.89	17位(21)	166.39	167.80	19位(28)
ハンドボール投げ	20.66	20.81	27位(34)	12.36	12.41	29位(36)
体力合計点	42.06	43.54	10位(19)	47.46	48.75	13位(25)

全国平均値と県平均値を比較して好成績の数値を赤字で記載(50m走は数値が低い方が好成績)

(1) 小学5年生

- 体力合計点は男女とも全国平均値を上回った。順位は昨年度より男子は下がり、女子は上がった。
- 全16項目のうち13項目(男子6項目、女子7項目)で全国平均値を上回り、昨年度より4項目増加した。
- 昨年度より順位が上がった項目(同順位含む)は14項目(男子7項目、女子7項目)であった。

(2) 中学2年生

- 体力合計点は男女とも全国平均値を上回っている。順位は昨年度に比べて男女とも上がった。
- 全16項目のうち12項目(男子6項目、女子6項目)で全国平均値を上回り、昨年度より3項目増加した。
- 昨年度より順位が上がった項目(同順位含む)は14項目(男子6項目、女子8項目)であった。
- 男子の50m走及び女子の反復横跳びで全国1位であった。

3 総合評価の状況【資料1】

各実技テストの結果を10点満点で換算し、A~Eの5段階で判定した結果は以下のとおり。(Aが最高評価)

総合判定	小5男子		小5女子		中2男子		中2女子	
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県
A Bの割合	34.2%	36.7%	36.3%	39.5%	35.5%	40.9%	53.3%	57.3%
D Eの割合	34.2%	30.9%	30.5%	24.4%	30.5%	25.9%	19.0%	15.3%

- 総合評価は全5段階のうち、小学5年生、中学2年生の男女ともA・Bの割合が全国の割合より高く、D・Eの割合が全国の割合より低い。
- 鳥取県における令和元年からの総合判定の経年変化では、男子についてはA・Bの割合は増加傾向、D・Eの割合は減少傾向にあるが、女子はA・Bの割合は減少傾向、D・Eの割合は増加傾向にある。

4 中学2年生の小学5年生時（令和4年度）との経年変化【資料2】

種目	年度	男子			女子		
		全国平均	県平均	順位	全国平均	県平均	順位
握力	小5（R4）	16.21	16.45	16	16.10	16.15	23
	中2（R7）	28.91	29.18	26	23.12	23.47	18
上体起こし	小5（R4）	18.86	18.52	33	17.97	17.90	24
	中2（R7）	25.99	25.87	27	21.62	21.58	23
長座体前屈	小5（R4）	33.80	32.55	37	38.20	36.56	43
	中2（R7）	44.98	44.30	34	46.97	46.05	35
反復横跳び	小5（R4）	40.37	41.22	15	38.67	39.95	14
	中2（R7）	51.63	53.53	2	45.77	47.41	1
20mシャトルラン	小5（R4）	45.93	52.06	3	36.98	43.38	3
	中2（R7）	78.59	82.95	4	50.44	54.14	4
50m走	小5（R4）	9.53	9.54	23	9.70	9.72	25
	中2（R7）	8.00	7.84	1	8.97	8.88	9
立ち幅跳び	小5（R4）	150.86	150.54	27	144.59	144.21	28
	中2（R7）	197.50	199.89	17	166.39	167.80	19
ボール投げ	小5（R4）	20.31	21.19	15	13.16	13.61	23
	中2（R7）	20.66	20.81	27	12.36	12.41	29
体力合計点	小5（R4）	52.29	52.75	13	54.32	54.99	14
	中2（R7）	42.06	43.54	10	47.46	48.75	13

全国平均値と県平均値を比較して好成績の数値を赤字で記載（50m走は数値が低い方が好成績）

【伸び率に関する全国平均値との比較】

項目	男子	女子
全国平均値の伸びを上回っている種目	上体起こし、長座体前屈、 反復横跳び 、 50m走 、立ち幅跳び、（体力合計点）	握力、長座体前屈、反復横跳び、 50m走 、立ち幅跳び、（体力合計点）
全国平均値の伸びと同程度の種目	握力	上体起こし
全国平均値の伸びを下回っている種目	20mシャトルラン、 ボール投げ	20mシャトルラン、 ボール投げ

全国と比較して伸びの変化が顕著な種目を赤字で記載。

5 運動意識、運動習慣、生活習慣等の状況【資料3】

（1）運動意欲・運動習慣

- 運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合は小5男子は92.8%、中2男子は91.8%で、小5女子においても86.4%と増加傾向にあるが、中2女子は75.4%に減少している。
- 体育・保健体育の授業は「楽しい」「やや楽しい」と回答した児童生徒は、小5男子は94.1%、女子は86.9%、中2男子は93.3%、女子は82.6%といずれも80%以上であるが、女子は小5、中2とも減少している。
- 体育、保健体育以外の運動時間は小5、中2の男女とも平成26年から減少傾向にあるが、中2女子は1週間の運動時間が約49分（1日平均7分）増加している。

（2）生活習慣

- 朝食を「毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は、中2女子が減少している。
- 睡眠時間が「8時間以上」の割合は小5の男女、中2男子が増加している。
- スクリーンタイムが3時間以上の割合は中2の男女とも増加しているが、小5の男女は減少している。
(スクリーンタイムとはパソコンやスマートフォン、テレビ等の画面の視聴時間)

- ・肥満度は、小5の男子は減少したが、女子は大きく増加した。肥満度は平成26年度から緩やかに増加している。痩身度は、男女とも横ばいである。
- ・中2については男子は肥満度・痩身度とも減少した。女子は肥満度は微増し、痩身度は微減した。女子は年次によってばらつきがあるが、痩身度は令和3年から増加傾向である。

鳥取県体力・運動能力調査 (資料4～6参照)

1 調査概要

- ・昭和52年から小1～高3の県内全児童生徒を対象として県教育委員会が実施している調査
- ・今年度の全国平均値との比較はできないため、前年度の体力・運動能力調査による同学年の全国平均値と比較（今年度の全国平均値は令和6年度体力・運動能力調査のその年代の平均値）

2 結果の概要

(1) 前年度の県平均値との比較【資料4】 学年ごとに全9種目（合計得点含む）

	小学校		中学校		高校	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
上回った種目数	40	32	18	12	16	17
下回った種目数	14	22	9	15	11	10

【ポイント】

- ・小5男子、高2男子、高1女子は全ての種目（合計得点含む）で前年度の県平均値を上回った。
- ・小4男女、中1及び中3女子、高3男子、高2女子は前年度の県平均を下回った種目が多い。
- ・小学校では「握力」「長座体前屈」、中学校では「立ち幅跳び」が前年度より下回った学年が多い。
合計得点が前年度の記録より上回った学年が多い等、記録が向上した学年が多い。

(2) 同一集団における経年変化（R2は中止のため記録なし）【資料5】

- ・男子は中学校から「握力」「上体起こし」の筋力、筋持久力が大きく向上し、その後も緩やかに向上する傾向にある。
- ・女子は「長座体前屈」は緩やかに向上しているが、他の種目は中3～高1をピークに横ばい又は低下している傾向にある。
- ・男女とも中3から高1にかけては「上体起こし」「20mシャトルラン」は低下している。
身長や体重、筋力が急激に発育発達する12歳ごろから、体力、運動能力の向上が見られることから、発達段階に応じた体力向上や運動能力が身に付いていることが認められるが、中3において受験等で運動機会が減少することで、高1の「上体起こし」「20mシャトルラン」の記録が低下することが考えられる。

(3) 生活習慣との関係【資料6】

- ・男女とも運動部やスポーツクラブ等に所属している児童生徒は、所属していない児童生徒に比べて合計得点が高い。また、週3日以上運動している児童生徒は合計得点が高い。
- ・男女とも、小学校高学年頃から、継続的に運動している子とそうでない子の差が顕著に表れる。
- ・運動実施時間が長い子とそうでない子の差は小学校高学年まで広がり、その後は差が縮まることなく推移していく。
- ・朝食を「毎日食べる」と回答した子の合計得点が「時々食べない」「食べない」と回答した子より高く、その差が縮まることなく推移していく。
- ・小学4年生から中学2年生にかけて睡眠時間が長いほど合計得点が高いが、小学校低学年や高校ではあまり差は生じていない。
- ・テレビ等の視聴時間と合計得点との関係は、男女とも小学校高学年頃から差が出始め、高校になると視聴時間が長い生徒は合計得点が低いことが顕著になる。
- ・男子は小学校高学年と高校で、女子は小学校高学年から高校にかけて、パソコン等の利用時間が長いほど合計得点が低い。

考察

- ・全身持久力を向上させるための取組（3分間走、マラソンカードの活用等）を7割以上の学校（小76.9%、中69.6%、高79.2%、特70.0%）で行っており、走力や筋力のアップにつながっていると考えられる。
- ・柔軟性向上のための取組（ワンミニツツエクササイズ、ストレッチ等）を6割以上の学校

(小65.8%、中69.6%、高83.3%、特60.0%)で実施しており、長座体前屈の記録の向上につながっていると考えられる。

- 各学校が児童生徒の実態に応じて体力向上推進計画書を立て、体力向上につながる取組をしており、その成果が経年の伸びにつながっていると考えられる。また、体力向上推進計画書には、具体的な数値目標を記載するようにしておる、各学校が目標を明確にして体力の向上に努めたことが成果につながっていると考える。
- トップアスリート派遣事業のトップアスリートバンクに登録しているアスリートが、体力テストの実施方法を動画で紹介したこと、動画視聴をする学校が増え、そのことが正しい測定方法につながったと考える。今年度はトップアスリート派遣事業を活用する学校等が増えた(R6年度15団体、R7年度21団体)ことで、さらなる運動意欲の向上につながっていることが期待される。
- 毎年、体育・保健体育指導力向上研修に哺育教諭等を派遣し、県内の3会場で伝達講習会を実施している。毎年100名程度の哺育教諭等の参加があり、参加した哺育教諭等の指導力向上につながっているとともに、運動遊びの楽しさを十分に味わった幼児が小学校に進学したこと、運動意欲の向上や体力向上につながっていることが考えられる。

今後の取組

(1) 運動意欲・運動習慣

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動が好き」「体育・保健体育は楽しい」と回答した児童生徒は体力合計点が高いことから、引き続き、学校体育講習会等を通じて子どもたちの運動意欲を高められるような授業づくりを推進する。
- 各学校で取り組んでいる好事例を体育主任連絡協議会で報告する。
- 体格と体力の関係やどの年代でどのような運動が効果的であるのか等について専門家に分析を依頼し、より詳細に考察し、今後の施策に活かしていく。
- 体力向上については年齢に合った成長が認められるため、引き続き低学年では運動遊びを意識し、運動意欲が継続するようにしていく。また、遊びの王様ランキングを継続して実施し、参加が増えるように働きかけていく。特に幼稚園や保育所等への効果的な周知を在り方を検討し、参加の増加を図っていく。
- 中学3年生は運動部活動の引退、高校受験等で運動する機会が減少するため、適度な運動が心の安定につながることや脳に好影響があること等を子どもの体力向上支援委員会の議題として話し合い、まとめた提言を体育主任連絡協議会等で報告する。

(2) 生活習慣

- 生活習慣と合計得点は相関関係があり、その差は年齢が上がるほど影響が拡大する傾向があるため、保護者に対して低学年から生活習慣の改善を意識させる啓発用チラシ等を作成していく。

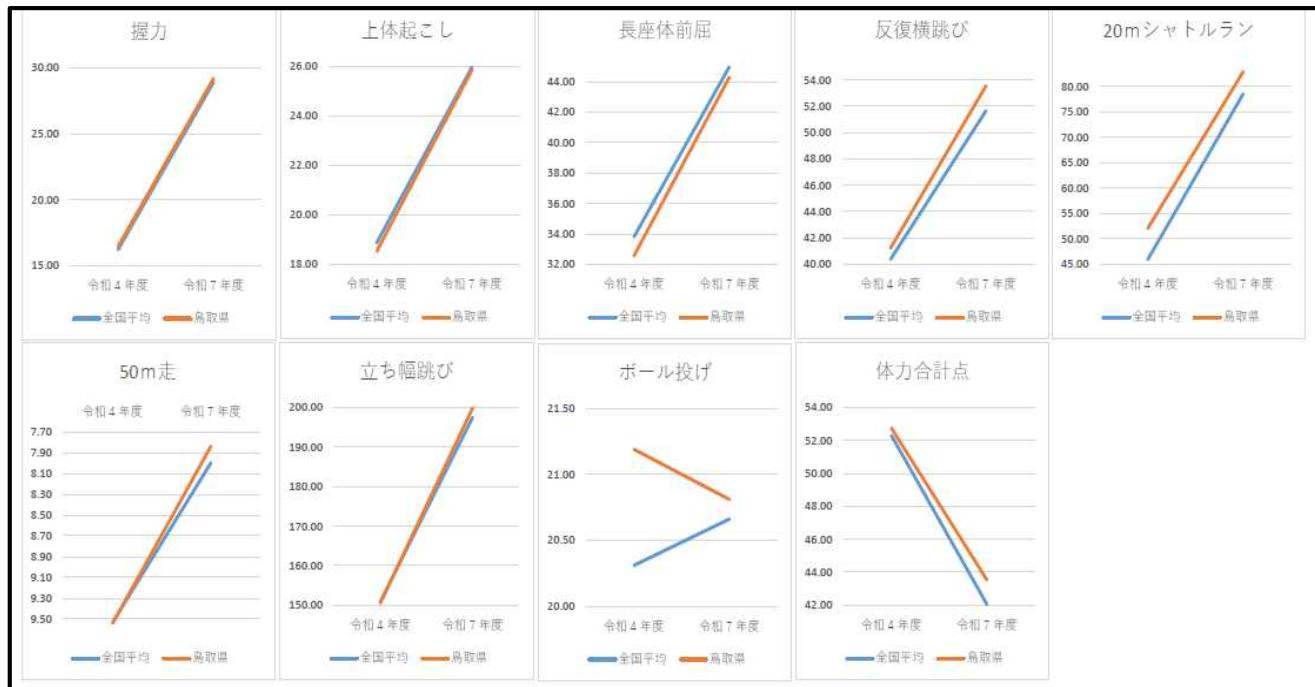
【資料1】今年度の結果と前年度との比較

区分	小字5年生										中字2年生										
	男子					女子					男子					女子					
	R 6	順位	R 7	順位	比較	R 6	順位	R 7	順位	比較	R 6	順位	R 7	順位	比較	R 6	順位	R 7	順位	比較	
握力	全国平均	16.02	25	15.97	18		15.78	24	15.61	14		28.91	23	28.91	26	▼	23.14	39	23.12	18	
	県平均	15.99		16.12			15.81		15.83			29.28	23	29.18	26		22.97		23.47		
上体起こし	全国平均	19.19	28	19.45	19		18.16	25	18.36	18		25.82	24	25.99	27		21.47	28	21.62	23	
	県平均	19.03		19.47			18.10		18.52			25.84		25.87			21.20		21.58		
長座体前屈	全国平均	33.79	44	33.88	41		38.21	41	38.17	40		44.32	41	44.98	34		46.44	43	46.97	35	
	県平均	32.31		32.65			36.75		36.82			43.16		44.30			44.98		46.05		
反復横跳び	全国平均	40.67	15	40.90	20		38.71	18	38.71	12		51.49	10	51.63	2		45.67	8	45.77	1	
	県平均	41.56		41.67			39.57		40.15			52.44		53.53			46.67		47.41		
20mシャトルラン	全国平均	46.90	3	47.95	3		36.60	5	36.87	5		78.65	11	78.59	4		50.48	8	50.44	4	
	県平均	52.52		53.61			41.91		42.05			81.85		82.95			53.53		54.14		
50m走	全国平均	9.50	13	9.46	12		9.76	20	9.77	21	▼	7.99	9	8.00	1		8.96	29	8.97	9	
	県平均	9.47		9.42			9.74		9.75			7.90		7.84			8.97		8.88		
立ち幅跳び	全国平均	150.46	38	150.96	27		143.18	41	142.39	20		197.16	21	197.50	17		166.22	28	166.39	19	
	県平均	149.07		150.64			140.98		142.76			198.65		199.89			166.90		167.80		
ボール投げ	全国平均	20.74	22	21.06	18		13.15	31	13.10	26		20.49	34	20.66	27		12.32	36	12.36	29	
	県平均	21.22		21.72			13.38		13.52			20.32		20.81			12.23		12.41		
合計点平均	全国平均	52.54	13	53.03	14		53.93	19	53.98	14		41.69	19	42.06	10		47.22	25	47.46	13	
	県平均	52.85		53.65			54.44		54.95			42.50		43.54			47.47		48.75		
総合評価A,Bの割合	全国平均	32.1%		34.2%			35.9%		36.3%			34.0%		35.5%			52.6%		53.3%		
	県平均	33.4%		36.7%			37.8%		39.5%			37.4%		40.9%			54.1%		57.3%		
総合評価D,Eの割合	全国平均	35.9%		34.2%			30.7%		30.5%			31.5%		30.5%			19.5%		19.0%		
	県平均	33.6%		30.9%			28.6%		24.4%			28.6%		25.9%			18.0%		15.3%		

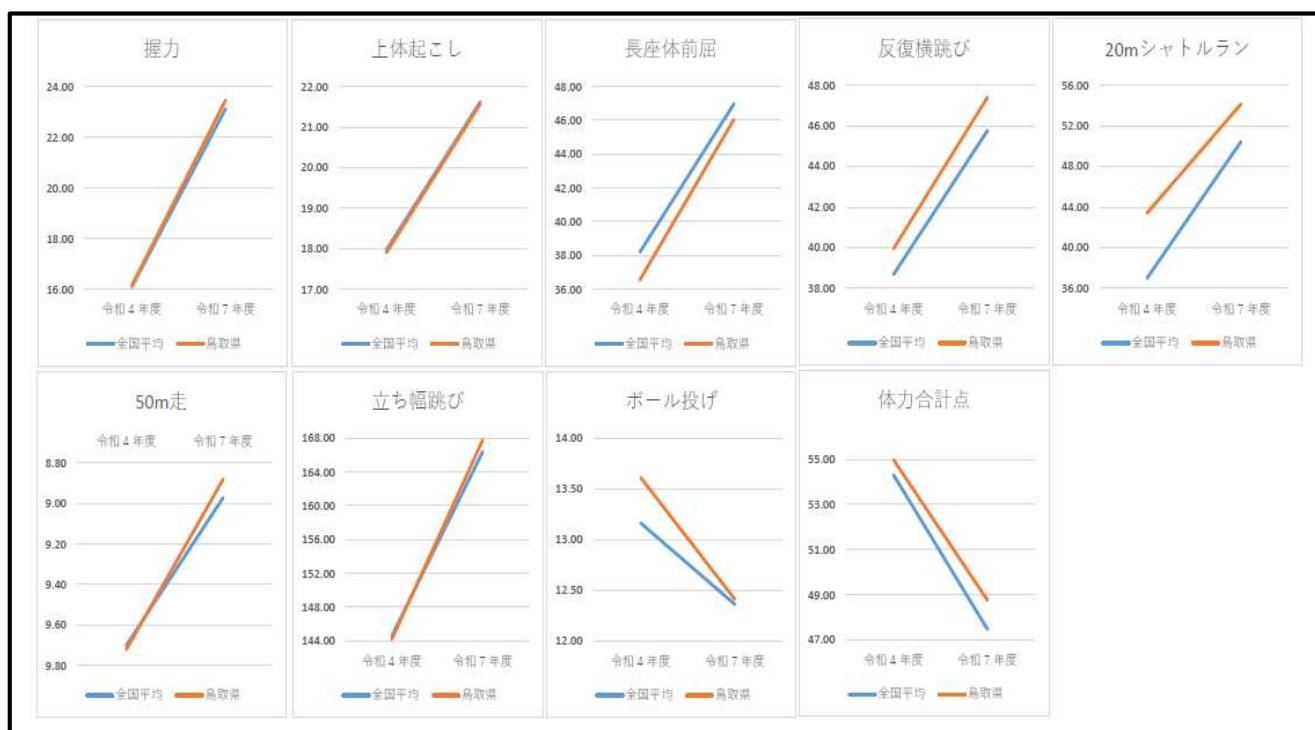
全国平均と比較して下回っている項目（総合評価D,Eの割合は、数値が増えたら下回るとする。）

▼令和6年度と比較して県平均の数値が下回った項目（総合評価D,Eの割合は、数値が増えたら下回るとする。）

【資料2】中学2年生の小学5年生時（令和4年度）の伸び率伸び率に関する全国平均値との比較
(1) 男子

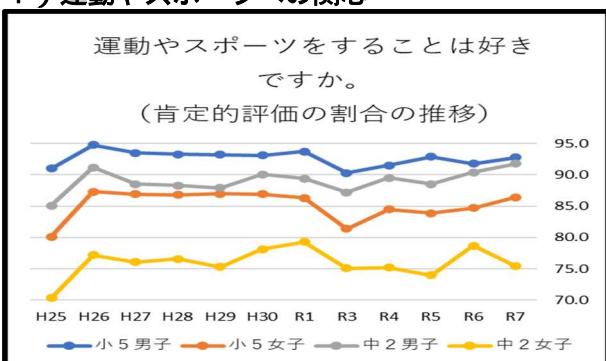


(2) 女子

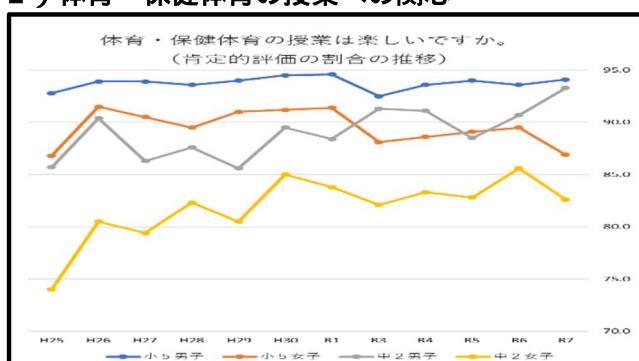


【資料3】児童生徒質問紙の推移

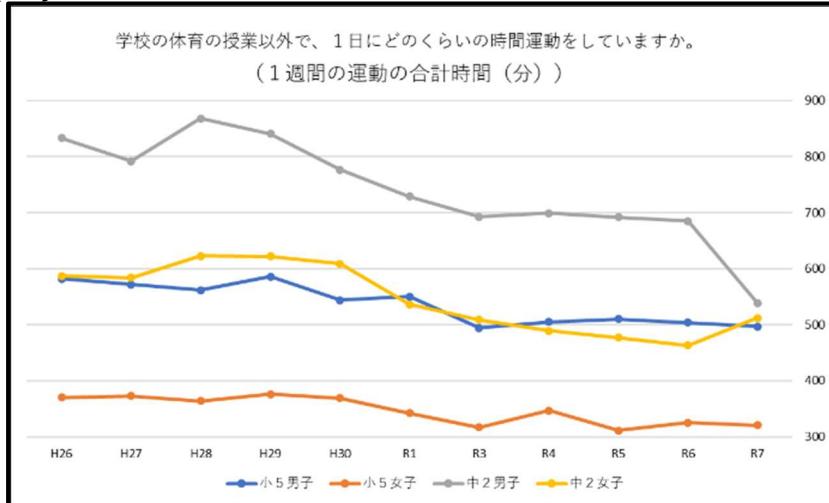
(1) 運動やスポーツへの関心



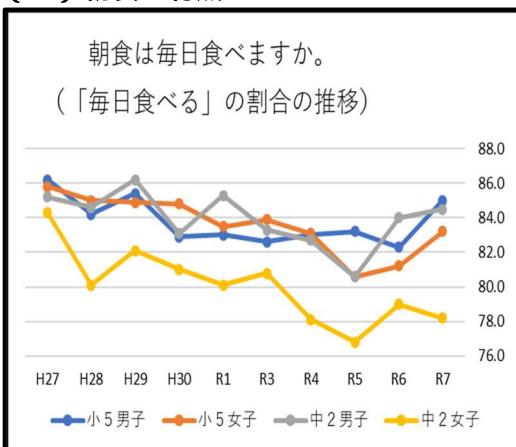
(2) 体育・保健体育の授業への関心



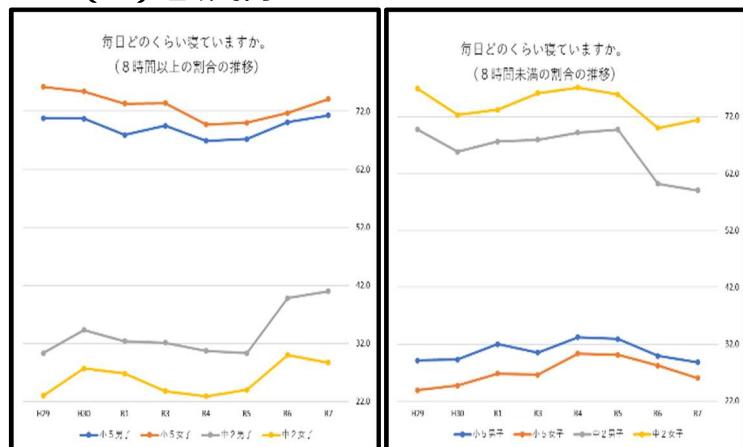
(3) 運動の実施時間



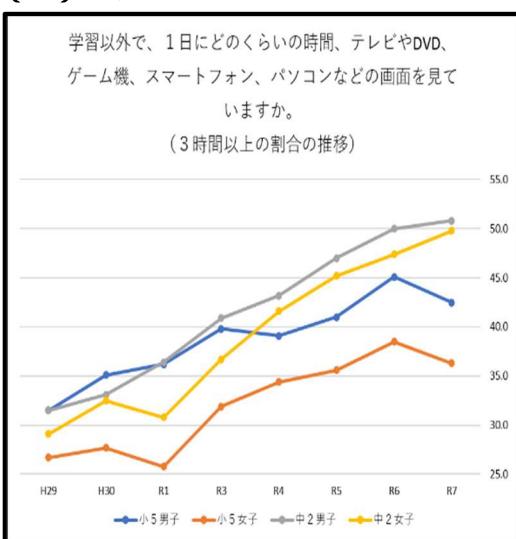
(4) 朝食の有無



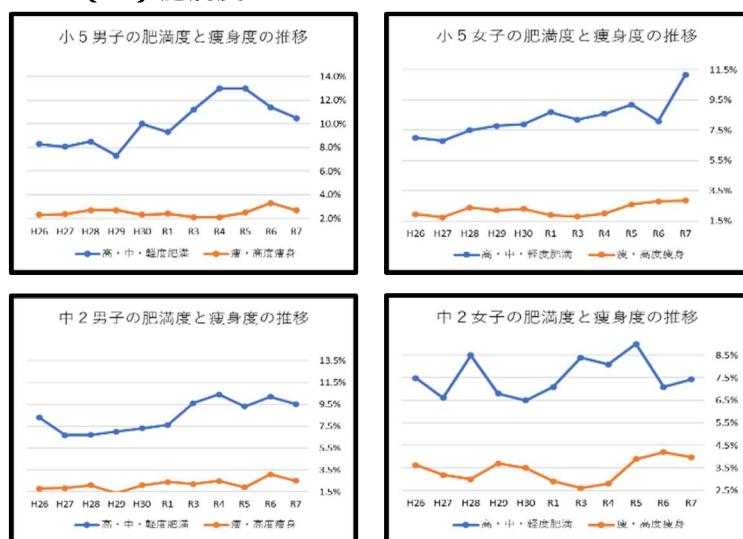
(5) 睡眠時間



(6) スクリーンタイム



(7) 肥満度



1 合計点

【資料4】令和7年度鳥取県体力・運動能力調査 前年度との比較

(1) 男子

区分	小学校						中学校			高等学校		
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)	1年(12歳)	2年(13歳)	3年(14歳)	1年(15歳)	2年(16歳)	3年(17歳)
R 6	29.88	36.93	42.55	48.20	52.91	58.28	34.08	42.70	49.87	51.57	54.04	56.84
R 7	30.10	37.02	43.35	47.92	53.38	58.38	34.52	43.10	50.22	51.76	55.19	56.26

(2) 女子

区分	小学校						中学校			高等学校		
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)	1年(12歳)	2年(13歳)	3年(14歳)	1年(15歳)	2年(16歳)	3年(17歳)
R 6	29.91	37.04	42.97	48.90	54.50	58.91	43.57	47.65	51.56	49.62	52.36	52.75
R 7	30.14	37.24	43.22	48.26	54.84	58.96	43.67	48.57	50.96	50.70	51.32	53.30

2 各種目

(1) 男子

区分	小学校																		
	1年(6歳)			2年(7歳)			3年(8歳)			4年(9歳)		5年(10歳)		6年(11歳)					
	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7
握力	9.09	8.98	▼	10.76	10.66	▼	12.38	12.60		14.26	13.90	▼	16.15	16.15		19.12	18.99	▼	
上体起こし	10.77	10.89		13.73	13.78		15.72	16.01		17.68	17.44	▼	19.05	19.37		20.91	20.88	▼	
長座体前屈	26.11	26.10	▼	27.28	27.33		29.11	29.25		30.71	30.11	▼	32.49	32.83		34.80	34.50	▼	
反復横跳び	27.18	27.67		30.99	31.22		34.19	35.16		38.29	38.46		41.76	41.84		44.32	44.60		
20mシャトルラン	19.47	19.75		29.16	29.29		37.73	38.49		45.81	45.66	▼	52.79	53.59		60.88	61.02		
50m走	11.74	11.74		10.82	10.86	▼	10.24	10.25	▼	9.83	9.80		9.45	9.43		9.05	9.02		
立ち幅跳び	112.31	113.03		124.42	124.55		133.67	134.94		142.78	142.23	▼	150.20	151.03		159.93	160.86		
ボール投げ	8.17	8.44		11.64	11.96		14.83	15.44		18.12	18.54		21.35	21.60		24.62	25.04		

区分	中学校						高等学校												
	1年(12歳)			2年(13歳)			3年(14歳)			1年(15歳)		2年(16歳)		3年(17歳)					
	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7
握力	23.49	23.56		29.40	29.07	▼	34.25	34.31		36.19	36.28		38.09	38.34		39.29	39.55		
上体起こし	22.74	23.00		26.11	25.96	▼	28.24	28.74		27.87	27.67	▼	28.69	29.04		29.79	29.69	▼	
長座体前屈	39.30	40.43		43.41	44.10		48.18	48.37		48.74	50.62		51.10	51.34		53.58	52.91	▼	
反復横跳び	49.40	49.81		53.12	53.82		55.90	56.48		56.28	56.36		57.44	58.08		58.93	59.05		
20mシャトルラン	70.76	70.18	▼	83.03	83.12		88.82	89.76		85.66	85.23	▼	89.24	91.10		91.42	89.47	▼	
50m走	8.45	8.47	▼	7.87	7.83		7.44	7.46	▼	7.33	7.36	▼	7.25	7.21		7.13	7.22	▼	
立ち幅跳び	183.96	182.14	▼	202.20	200.86	▼	217.78	215.90	▼	224.74	226.68		227.96	230.97		233.46	231.67	▼	
ボール投げ	17.34	17.60		20.38	20.70		23.47	23.46	▼	24.75	24.27	▼	25.36	26.29		26.49	26.29	▼	

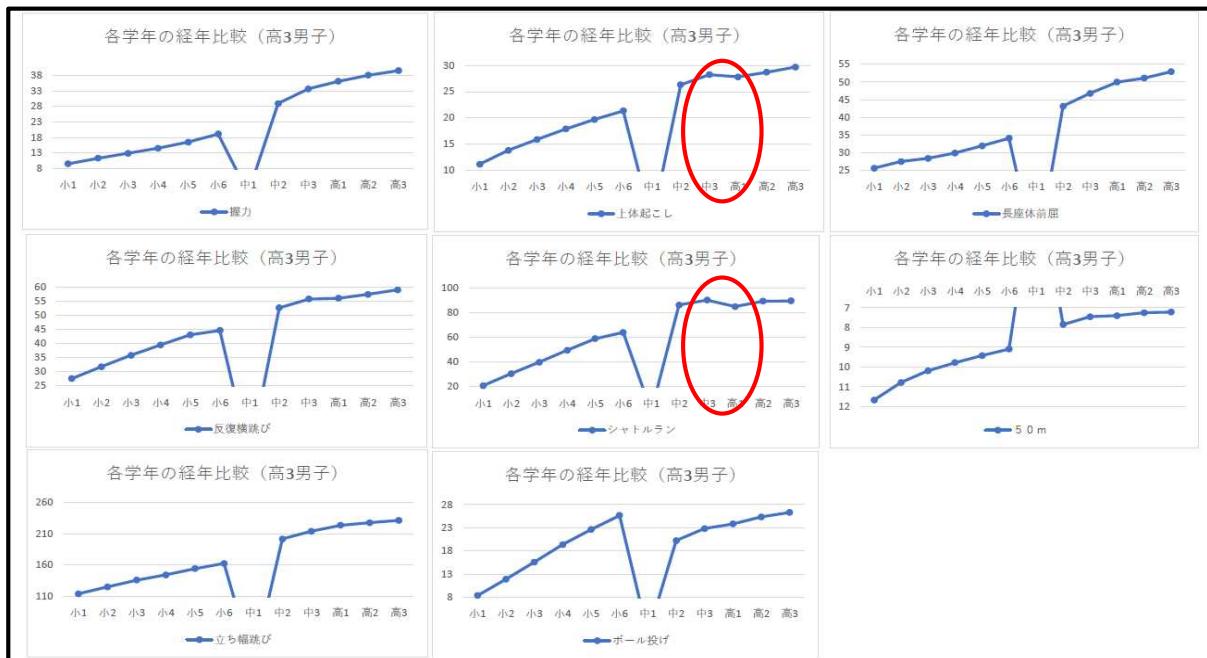
(2) 女子

区分	小学校																		
	1年(6歳)			2年(7歳)			3年(8歳)			4年(9歳)		5年(10歳)		6年(11歳)					
	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7
握力	8.59	8.51	▼	10.09	10.03	▼	11.76	11.78		13.62	13.24	▼	16.03	15.82	▼	18.78	18.71	▼	
上体起こし	10.44	10.50		13.05	13.26		14.84	14.87		16.61	16.70		18.16	18.52		19.19	19.30		
長座体前屈	28.46	28.38	▼	29.74	29.95		32.64	32.11	▼	34.02	33.87	▼	36.85	36.71	▼	38.82	39.09		
反復横跳び	26.38	26.69		30.11	30.05	▼	32.86	33.53		36.63	36.30	▼	39.65	40.33		41.94	42.09		
20mシャトルラン	16.24	16.96		23.14	23.72		28.96	29.10		35.61	34.47	▼	42.37	42.46		48.15	47.56	▼	
50m走	12.02	12.03	▼	11.21	11.17		10.60	10.66	▼	10.17	10.21	▼	9.71	9.75	▼	9.43	9.40		
立ち幅跳び	104.84	104.80	▼	115.36	115.36		123.80	126.30		134.17	131.93	▼	142.55	143.40		149.08	149.02	▼	
ボール投げ	5.47	5.64		7.43	7.46		9.20	9.43		11.42	11.53		13.52	13.68		15.52	15.40	▼	

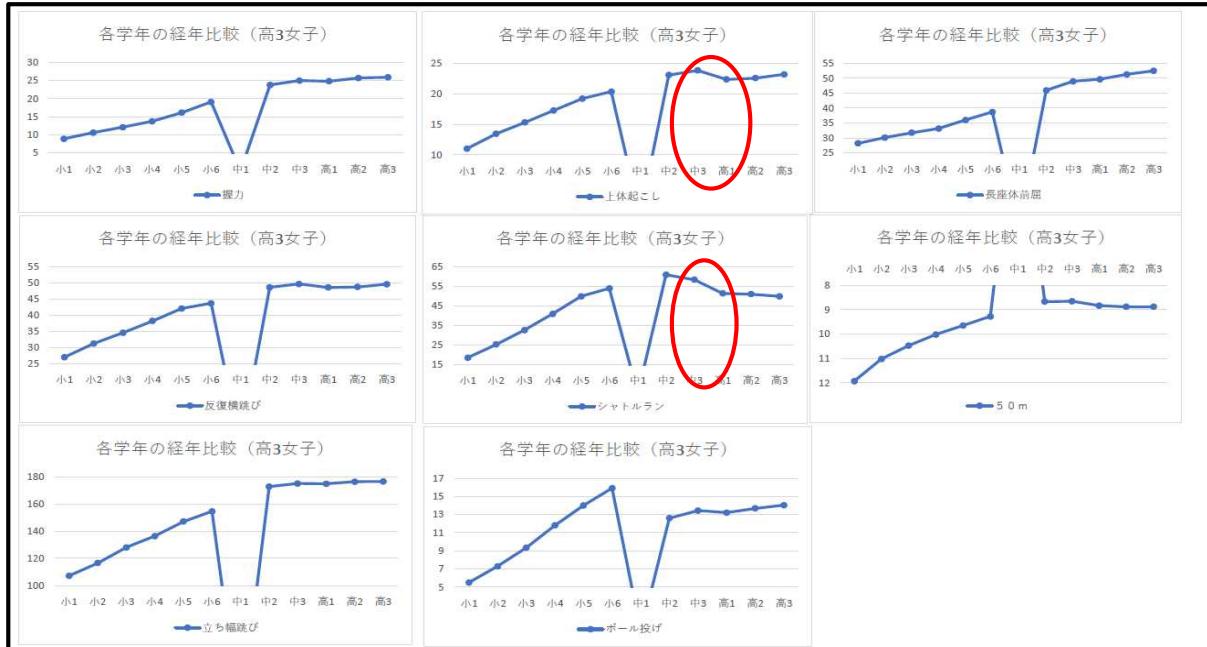
区分	中学校						高等学校												
	1年(12歳)			2年(13歳)			3年(14歳)			1年(15歳)		2年(16歳)		3年(17歳)					
	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7	比較	R	6	R	7
握力	21.28	21.18	▼	23.14	23.53		24.99	24.76	▼	24.39	24.64		25.70	25.13	▼	25.65	25.89		
上体起こし	19.67	19.55	▼	21.43	21.63		22.76	22.51	▼	21.26	21.44		22.66	21.68	▼	22.32	23.18		
長座体前屈	42.28	43.20		45.10	46.14		48.64	48.83		48.53	49.44		51.25	50.72	▼	51.67	52.47		
反復横跳び	45.83	45.63	▼	47.11	47.67		48.70	48.52	▼	47.79	48.46		48.77	48.51	▼	49.13	49.62		
20mシャトルラン	51.46	51.33	▼	53.88	54.42		54.57	54.07	▼	48.84	49.05		51.00	49.57	▼	49.81	49.88		
50m走	9.09	9.11	▼	8.94	8.86		8.78	8.81	▼	8.91	8.84		8.88	8.88		8.86	8.88	▼	
立ち幅																			

【資料5】高等学校3年生の小学1年生からの経年比較（令和2年度は記録なし）

（1）男子

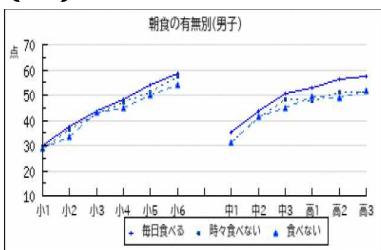


（2）女子

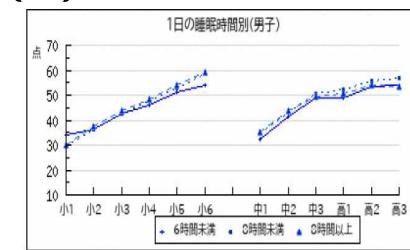


【資料6】令和7年度鳥取県体力・運動能力調査（調査項目と合計点との関係）

（1）朝食の有無と合計点



（2）1日の睡眠時間と合計点



（3）テレビの視聴時間と合計点

